

ラウンドテーブルⅡ オーガナイザー 佐藤学（秋田大学）

テーマ	算数・数学における「自律的発展型授業」に関する質問紙調査の作成とその分析
発表者	佐藤学（秋田大学），新木伸次（国土舘大学），黒田大樹（岐阜聖徳学園大学），重松敬一（奈良教育大学（名誉教授））
指定討論者	加藤久恵（兵庫教育大学）
趣旨及び概要	<p>自律的発展型授業の実現には，学習者の問いが働いて発展的に展開する数学的活動となるよう，教師が支援することが重要である．教師の指導・支援は，学習者が数学することを，教師がどのように捉えているかにより異なる．本研究は，この捉えを教師の「数学することを教える」として注目し，質問紙調査の分析から，指導への示唆を得ることを目的とする．</p> <p>質問紙調査は，アーネスト（2015）の可謬主義，絶対主義を参考に，「数学することを教える」を「可謬的可變的な見方・考え方」「絶対的固定的な見方・考え方」に整理し，授業構想時と授業実践時で異なる反応が見られる傾向を踏まえ，質問項目を検討し，2つの見方・考え方を5件法で回答する質問紙調査を作成した．質問紙調査は，2021年5月～7月の期間にWebフォームで実施し，小，中，高，大学の教員，学生から593名の回答を得た．調査データを，「校種別の特徴や傾向」「教職経験の影響」「全国学力・学習状況調査との関係性」から分析し，報告する．本報告をもとに，「数学することを教える」の現状を共有し，自律的発展型授業の実現に向けた問題点や改善について討議したい．</p>